

平成 27 年度 常設展 第 3 期

高松市合併 10 周年記念 熊野俊一・池原昭治 二人展

こころのふるさと

2015. 12/5(土) ~ 2016. 4/17(日)



上：熊野俊一《カーニューの春》1973

左：池原昭治《『塩江の民話』表紙》

高松市合併 10 周年を記念して、こころのふるさとと題し、熊野俊一、池原昭治の二人展を開催します。塩江美術館の初代館長である藤沢秋義の著書『塩江の民話』には、塩江町に伝わる民話が数多く集約されています。挿絵は、高松市出身の童絵作家・池原昭治が担当し、優しくやわらかな筆跡で民話を今に伝えています。そして、掲載された表紙を含む挿絵の原画全 43 点が、このたび当館に収蔵されることとなりました。本展では、その全作品を初公開し、この地に伝わる民話とともにご紹介します。

1908 年塩江町に生まれた画家・熊野俊一は、南仏のカーニュ＝シュル＝メールを第二の故郷として愛し、制作における長期滞在の拠点としていました。本展では、熊野が親しんだカーニュの風景を中心に、隣接する地中海沿岸の街の風景や、澄んだ空気と豊かな陽光のもとで描いた花々をご紹介します。